

令和7年度喜多方市総合戦略推進会議 会議録

日 時：令和7年12月24日（水）13:30 ～ 14:45

場 所：喜多方市役所2階 大会議室

■ 出 欠

1 出席委員（13名）

唐橋 裕幸委員、五十嵐 敦委員、松本 榮二委員、齋藤 百合子委員、
初澤 敏生委員、橋本 葵委員、佐藤 明紀委員、渡部 淳子委員、
白水 香織委員、森田 正明委員、渡部 礼子委員、池田 満吉委員、
竹野 繁人委員

2 欠席委員（7名）

大西 尚和委員、小水 欧貴委員、村上 将臣委員、長谷川 武之委員、
渡部 孝一委員、五十嵐 明美委員、花見 紀子委員

3 市出席者

| | | | |
|------------|--------|----------|-------|
| 市長 | 遠藤 忠一 | 企画政策部長 | 小荒井 浩 |
| 総務部長 | 永井 輝彦 | 市民部長 | 長谷川 仁 |
| こども課長 | 武藤 真一 | 産業部長 | 大場 悟 |
| 建設部長 | 佐藤 幹二郎 | 教育部長 | 佐藤 茂雄 |
| 熱塩加納総合支所長 | 山口 和志 | 塩川総合支所長 | 安藤 義弘 |
| 山都総合支所長 | 須藤 秀治 | 高郷総合支所長 | 田代 謙二 |
| 企画調整課長 | 伊藤 博之 | 企画調整課長補佐 | 横山 武憲 |
| 企画調整課副主任主査 | 久保 隆 | 企画調整課主査 | 佐藤 康丈 |
| 企画調整課副主査 | 草刈 貴浩 | | |

■ 会議次第

委嘱状交付

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長選出
- 4 会長あいさつ
- 5 諮 問
- 6 議 事

(1) 第2期喜多方市総合戦略（令和6年度）の効果検証について【資料1】

(2) デジタル田園都市国家構想交付金活用事業（令和6年度）の効果検証について【資料2】

- 7 そ の 他
- 8 閉 会

■ 議事内容

(1) 第2期喜多方市総合戦略（令和6年度）の効果検証について【資料1】

●会 長

私の方から1点質問させていただきたいと思います。11ページの起業・創業件数で、これは目標値を大幅にオーバーしているというところなんですけれども、これは他の地域と比べましても相当数の起業・創業件数じゃないかというふうに思われます。何か特徴的な取組などがあったのでしょうか。こういう行動、これが1番効果があったとか、そういうところがありましたら教えていただければと思います。

○事務局

11ページの起業・創業件数について、目標が達成できたことについて特徴的な取組ということでございます。これにつきましては、平成30年の初期値のときから企業の方に対しまして、いろいろと情報提供や、あるいはサテライト事業などをずっと継続的に行ってきたところではございます。ただ、そういったことが功を奏しまして企業の方でもある程度ですね、件数的にもある程度上回ってきた。あとはサテライト的な部分でもやっておりますし、あとは市といたしましては創業支援セミナーということで伴走支援であったりとか、切れ目のない支援の方を取り組むことによって、起業の方に繋がってきたというところでございます。

●委 員

基本目標4、27ページになります。デマンド交通の利用者数、そして、次の公共交通利用者数、星印が付いているところなんですけれども、これもしかしたら次のデジタル田園都市国家構想交付金活用事業とも関連してくるのかもしれませんが、西部の方が始まっていると思うんですけれども、これは全体的に利用者数が増えているのか、西部の方が利用者数を押し上げているのか、そのあたりを教えていただきたいなと思います。

○事務局

今ほどの公共交通の関係の増加につきましては、西部エリアが解消されたというところで、まだまだ西部エリアの方は利用者の方はまだちょっと低調といいますか、まだまだこれからいろいろ周知等を図りまして、人数を増やしていきたいというところを考えてございまして、増えている人数といたしましては東部エリア、喜多方・熱塩・塩川の利用者が伸びているということでご理解いただきたいと思います。

●委 員

11ページの起業・創業件数で、目標に達してA評価ということですが、具体的にどんな起業・創業がされたのか、その中身っていうのは教えていただけますか。例えばラーメン屋さんのお店を開くとかそういうことなんでしょうか。

○事務局

委員ご指摘の通りですね、やはりラーメン店とか飲食に関わる業種の方がほとんど、多いということでございます。ただこういったサテライトの就業支援ということで、経営のノウハウであるとか、あるいは、その経営した後に、資金のやり繰りであるとか、そういったところも伴走支援ということで、寄り添いながら続けてきたことによりまして、起業数に一定程度効果があったというところでございます。

●委 員

それに関係して、あべ食堂さんの店舗をラーメンのやりたい人のための教室というか、そういうふうな話は聞いていますけれども、それはいつ頃オープンされる予定なんでしょうか。

○事務局

今おっしゃられた旧あべ食堂を利用しての中身でございますが、これは市の方に寄付された施設でございまして、市といたしましては、チャレンジショップってということで、新たにですね、ラーメン店を起業される方のバックアップといいますか、後押ししていただきますか、そういったことで現在、そのチャレンジショップをやってくれる方を募集しておりますし、併せまして、ガバメントクラウドファンディングで資金を集めるということも一緒にやっております。ただ、具体的にはまだ、今、募集とクラウドファンディングの実施中ではありますが、目標といたしましては、年度内にはある程度募集される方も決まって、立ち上がっていくという流れで今のところ進めている状況でございます。

●委 員

逆に質問なんですけど、今の 11 ページのところで、この起業・創業件数が他の地域に比べて多いというお話だったんですけど、そんな多いんですか。

○会 長

喜多方市の人口は言ってみれば、福島、郡山に比べますと 10 分の 1 程度、もうちょっとありますけれども、そういうようなところから比べますと、これは相当な数というふうに私は認識しております。特に、この間にコロナもありましたので、比較的経済活動が低調だった時期もありました。さらに言いますと、実はこれは飲食店が多いというふうに聞いて、私は、実はこの仕事 4 年ぶりに戻ってきて、町を歩いたら、大分飲食店が減っているなという印象だったんです。そこがかなり増えているということを聞いて少々驚いているところです。

●委 員

25 ページの子育て関係のところなんですけど、子育てに対する不安や負担感を軽減するというふうにありますけど、これはどのような施策がとられたんですか。

○事務局

ただいまのご質問にお答えさせていただきます。安心して子育てできる環境の整備をどのようにするかというご質問だったかと思いますが、本市におきましては、シンボリックなものとして、皆さんご存じかと思いますが、アイデミきたかたという施設がございまして、令和4年度に開設したわけなんです、そこを子育ての支援拠点といたしまして、メインとなるものを子どもの遊び場、屋内遊び場がございまして、遊びの提供を行っているところでございます。

その他にも本市といたしましては、出産前から出産後も年代に応じて、それぞれ支援、施策を行っておりまして、具体的に言いますと、金銭的な部分の助成、それからこの資料にはなかったかと思いますが、年代年代に応じてきめ細かな、小学生、それから、それ以上につきましても、子どもが成長するに応じて、様々な支援を行っているところでございます。

●委 員

ちょっと関連して、喜多方では分娩できる医院とか病院というところがないかと思うんですが、その辺の対策はどのようになさっていますか。

○事務局

おっしゃる通り分娩できる医院というものが数年前からない状況でございます。これにつきましては要望等多くございますので、なかなか市単独でもその整備という部分で、難しい部分もございますので、これにつきましても県の方に要望を行ってまいりまして、改善といえますか、そういった方向で考えているところでございます。

●委 員

9ページなんですけども、この森林経営計画策定面積ってことで、達成率が209.4%ってことで、非常に効果があるように思えるんですけども。合併してですね、例えば山都町であったり、あと高郷村であったり、熱塩加納村であったり、ほとんどは大体山なわけですよね。私の住んでいるところも北塩原村で、どこを見ても山しかないってとこなんですけども。

この山の問題っていうのは、おそらくあと5年10年経ってくると山税っていうのかな、税金を払う人たちが高齢化になってきて、非常にやっぱり負担になってくると思うんですよね。その山を所有していること自体が。見方を変えればですよ、山っていうのは木が生えていて、バイオマス発電の燃料なんかにもなってくるってことで、活用の仕方によっては金になる山だというふうとも言えると思います。

これで、この面積っていうのはこういった意味では、目標としている面積も少ないし、実際は合併して山いっぱいになりましたから、この辺、もう少し数値を上げたりですね、この所有者不明であったり、森林の活用の仕方とかですね、この辺を将来に向けてもっと緻密な計画を立ててやっていく必要があると私は思っています。

●会 長

ご意見かと思いますが、もっと緻密な計画を立てて管理していく必要があるのではないかと、もし何か対応をされている部分ありましたらお願いします。

○事務局

今ほどの委員のご指摘、確かにその通りではございます。確かに面積も非常に多いですし、住んでいる方、森林を所有している方も高齢になってきていますので、非常に管理がなかなかできないということで、国の方で森林環境税というのを徴収して、森林の活性化あるいは維持管理、整備の方に使うということで、財源措置もなされたところではあります。

ただ、委員ご指摘の通り、所有者がわからない、あるいは山林の境界がわからない、そういう部分も踏まえますと、なかなかこの計画面積が上がっていきづらいというのも実際正直なところであります。ただ、いつまで経ってもわからないままでいいのかということも非常によろしくないということで、今年度からなんです、そういった所有者不明であるとか、境界不明の場合の取扱いをどうしたらいいのかということで、林政アドバイザーという方をお願いして、どういったら効率的に進められるのか、どういった障害があるのか、そういったことを分析しながら、よりよい計画の策定に進めていくように7年度から進めているところでございます。ただ、その成果が来年度すぐ上がるかっていうところはちょっと疑問符が付くんですが、市といたしましては、やはり森林が荒れるっていうことは非常によろしくないものでございますので、それこそ熊の問題とかいろいろ自然環境が今バランスが崩れている状況ですので、そういったことの解消にもなるかと思っておりますので、そういった計画の方は着実に進めていくべきというふうに、市の方では捉えておりますので、少しずつではありますが、計画面積も徐々に上げていきたいと考えております。

●委 員

先ほど委員がおっしゃった内容の続きになりまして、25 ページですね、不安を解消というところだったんですけど、実は私、1歳2ヶ月になる子どもがおりまして、決して現役世代ではないんですけど、現役の父親としての体験談を踏まえてちょっとお話をしたいことがありましたのでお話しします。

妊娠中にですけれども、私の妻は地元喜多方ということになっておりますけれども、喜多方は母親の実家でして、生まれと育ちは中通り福島と仙台ということで、お母さんの実家に移り住んで1年ぐらいしたところで私と知り合って結婚したということで、友達もあまりいなければ、その地理もあまりよくわからないという状況で妊娠を迎えるわけです。そうしますと、例えば陣痛が来たときに、先ほど産院が喜多方にないっていうお話になりますので、最低でも若松、もしくは、郡山ということになってくるわけですから、陣痛が来たときにどうするんだって話になって、私もいい歳ですから、万障繰り合わせて連れて行ってやるわかってことを言うんですけど。やはり妊婦っていうのはやっぱりちょっと、我々と考えが変わってしまうというか、そういう問題ではないってことにな

りまして。陣痛タクシーというのがありまして、この辺ですと広田タクシーさんでやっているのがあるんですけど。それも一応申し込んだんですが、時間的な制約があったりですね、ちょっと対応があれだったりしたものですから、いかがなものかと思ったんですが、ちょっと調べてみますと、他の自治体の例なんですけれども、妊婦情報事前登録制度っていうのがあるようです。これは地元の消防本部に情報提供することによって、情報を共有して緊急を要する場合に、担当医師の指示のもと医療機関にスムーズに搬送するという仕組みがあるようなので、こういうものがあるんですね、喜多方にもありますと妊娠をされている女性の不安の解消って意味ではかなりのインパクトがあるんじゃないかなっていうことがありましたので。ただ、最近ネットで何でも調べるという傾向がありまして、救急車の適正使用という観点から、陣痛が来て、救急車を呼んでいいかって調べますと実際、時間があるからタクシーでいいよとかですね、そういうふうに誘導される場合が多いので、もし喜多方にもこういう制度があれば、すごく不安を解消するものになるというか、喜多方で出産を迎えようという人が増えるんじゃないかなと思いますので、今ちょっと委員のお話を伺ったのでお話をしました。

●会 長

ご意見かと思いますが何か回答できることがあればお願いします。

○事務局

今、委員さんからご意見いただきましたので、私聞いておりまして大変良い仕組みというふうに感じましたので、その辺に関しては喜多方市でできるかどうか検討させていただきたいと思います。

●委 員

27、28 ページの空き家対策と自主防災組織っていうことに関してなんですが、何ヶ月か前に國學院大学の学生さんで観光まちづくり科というところの学生さんが何人か泊まられて、喜多方の町をくまなく歩かれて、それであるグループがもし喜多方が火事になったら、そのときの風向きとか、どの辺がどのくらい燃えて、消防車はどうやって入っているのかとか、そういうんで、なんでかという喜多方って意外と観光的には売りになるかもしれませんが、細い道がすごく多いうて、ここが1回火事になっちゃったら、本当に大変だねっていう発表をされたんですね。ですから、すごく大事な指摘で、この間大分でもあんなに大きな町全体が焼け野原になっちゃうような火事があったんですけども。

総合戦略の中に1つこういう自主防災みたいなものをもっと力を入れてやっていくっていう項目を入れられたらどうでしょう。この空き家対策がA評価を受けているっていうんですが、私は市内に住んでいて空き家が減ったっていう実感は全然ないですね。むしろもう年々ひどい状態になっていくので、こんなところから火が出たらもうたまらなくなっているのは市民の正直な感想なんです。そういう戦略っていうのをこの中に入れていくべきかなと、防災をもっと力強くというふうに思いました。

○事務局

ご意見ありがとうございます。委員よくご存じだと思いますが、消防の関係ですとですね、昔はこの大きな消防車ということで、常備消防ということで広域の方では大きな消防車がメインになっているんですけれども、市の方で今入れているのは、軽自動車に積載するような消防車とかですね、実際、ポンプを軽トラックに乗せて運んだりというように小回りの利くような消防車もですね、かなり入れているということで、状況に応じて対応ができるような、今、組織づくりも含めてやっているということでございます。

この自主防災組織につきましては、各行政区さんが中心となって防災にあたっていたくというような組織ということでありまして、これについてもですね、以前から進めているところではありますが、なかなかですね、ご理解はいただいていると思うんですけれども、やはり新たな組織をつくらなきゃいけないということもありまして、なかなか数が増えないという状況でございます。特にですね、やはり新たな方が入ってきていただくような、塩川町の方ですね、町単位でいくと数がちょっと少なくてですね、16.4%ということで、高郷町については100%自主防災組織結成されております。そういうこともありまして、各行政区長さん出席いただくような会議でもですね、自主防災組織の結成に向けて、お願いはしているところでもありますので、引き続き、そういった活動を含めてですね、進めてまいりたいというふうに思っています。

○事務局

喜多方市全体の空き家の現状申しますと約1700ほどの空き家がございまして。その中でも比較的新しめの空き家と、あとはもうどうしようもない古い空き家というふうにランク付けを行いまして、あと委員おっしゃったように、市街地部で何かあれば、例えば通学路に面している空き家ですとか、そういった人命にも影響するような空き家というのを優先的に順位をつけて、我々の方の指導を勧告等、所有者の方に求めているという状況でございます。

空き家は原則、持ち主の方が片付けるというのがまずは原理原則ですので、そういったところで対応はとっているところではございますが、委員の方からご指摘あったように、全然ある程度減っているイメージがないというようなところではございますので、そういった我々なるべく危険性のあるところからなくす方向で指導したり、あとは今年度初めてですね、空き家の代執行というの、喜多方市の方で略式代執行というのを実施いたしました。そういったところでも人目に目につきやすいところというの、当然1つの町のイメージアップにも繋げられる大切なファクターだと感じておりますので、そういったところも優先度の中に入れてですね、今後取り組んでいきたいと考えております。

●会 長

ただいまご意見をいろいろとちょうだいいたしましたので、これらのご意見を受けながら市の方でまとめていただければと思います。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金活用事業（令和6年度）の効果検証について【資料2】

●委 員

e スポーツですね、これは高齢者をはじめとしてということですが、高齢者が実際やった後ですね、その結果、どのような効果が表れているんですか。

○事務局

e スポーツにつきましては、まず、1の実施回数5回、参加者374名と記載ございますが、こちらにつきましては、熱塩加納公民館、アイデミきたかた、喜多方プラザ、駒形地区公民館で開催したところでございます。高齢者の方と子どもさんに対しまして公民館事業としまして、世代間交流という目的でこのe スポーツを使いまして、具体的には太鼓の達人という太鼓を叩きながらのものとカーレースの2種類だったんですけども、こちらで、小学生とかこども園の方、あと高齢者の方との交流事業を図りまして、さらにはe スポーツ以外でも話し相手とか、あと、わら細工なんかも逆に高齢の方から教わったりですね、そういうことで公民館事業として実施いたしまして、また参加したいというようなご意見をちょうだいしておりますので、今後、全公民館の方でもできるような体制ができないかということで、今検討するような状況でございます。

●委 員

このe スポーツを通じて認知症の解消とか、あるいは認知症を予防するとかというふうな目的とか何かでやられてはいなかったんですか。

○事務局

先ほど説明いたしましたこのシートですね、左側の方でございますとおり、e スポーツを活用し、高齢者をはじめとした市民向けの体験交流会を開催することで、地域のコミュニティの活性化を図るとともに、市民の認知症予防、介護予防健康づくりに寄与するという目的で、先ほど申しましたその太鼓の達人なんかですと、バチでこう、リズム感をとりながら、手を動かすようなことで、認知症予防とか介護予防に繋がるんじゃないかというような研究結果なんかも報道されておりますので、その辺で、我々としても取り組むことによりまして、少しでもこういう予防に役立たないかなということで取り組んでいるような状況でございます。

●委 員

No.1のめごポイント事業についてなんですけれども、私、今、喜多方子育てサポートセンター、アイデミきたかた内にあるところで働いておりまして、そちらで子育て支援の業務に携わっておりますが、皆さんやはりアイデミきたかたをととても喜んでお越しいただいて、めごプラザでも毎日のように皆さん元気に遊んでいらっしゃるんですが、やはり他の地域から来た方なんかもこういうことに関心がありまして、実際、めごポイントでこうやってポイントで還元があるということを知ったときに、どのぐらい皆さん使われてい

るんですか、なんて聞かれたことがありまして、私自身もちょっと子どもがなかなか遊びに行けなくて、ポイントを集めるまでに至らなかったものですから、実際にこの交付枚数分、フルで皆さん活用されていて、それが実際お店で全部使われているのかといったところについて興味がありますので、わかれば教えていただければと思います。

○事務局

めぐポイント事業の件でございます。どのくらい使われているのかということなんですが、令和4年度に開設しまして、予算的にも利用回数が20回につき500円の商品券が交付されて、それを市内の飲食店で使えるという内容の事業でございます。予算がですね、上限ございまして200枚と記載ございますが、200枚すべて交付している状況でございます。

あと市内の飲食店でどのくらい使われているのかというところでございますが、ほぼ使われてはいるんですが、中には年度内という使用期限がございまして、おそらく忘れてっていう事情だと思うんですけど、数枚使われなく終わってしまったという状況があるところでございます。

●会 長

では、ちょっとこちら3件ということもありまして、ご意見が少なかったんですけども、ご意見などできるだけ活用しながら事業を進めていただければと思います。どうもありがとうございました。

では、以上で市長から諮問のありました2件の議事を終了とさせていただきたいと思えます。司会を事務局の方にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

■ そ の 他

●意見等なし

以上